



© JFA / PR



NADESHIKO
JAPAN

VOL.18 2020.05.18

委員長コメント

JFA 女子委員長 今井純子

新型コロナウイルスの感染拡大が予想もしなかった状況となり、世界中に未曾有の危機をもたらしています。日本でも、4月7日に緊急事態宣言、16日には全国へと拡大。皆さんの活動自粛等の成果で感染の拡大は少しずつ抑制されてきて、5月14日には、39の県で緊急事態宣言が解除されました。一方で、感染によってお亡くなりになる等、衝撃的なニュースも多くあります。

世界の状況を見る中で、活動の再開の情報も少しずつ聞かれるようになってきています。一方、再度の感染拡大の情報もあり、バランスの非常に難しいところも見られます。

皆さん、不自由と緊張を強いられる中、いろいろと工夫をしながら過ごしていってほしいと思います。

まずは安全第一に、第二波の拡大が起こらないよう、まだまだ弛緩せず、引き続き、感染予防、拡大防止を第一に、皆さん一人ひとり、また周りの人々と共に、くれぐれもお気をつけてお過ごしいただければと思います。

サッカー関連、今年計画していた事業の多くが中止、延期となっています。インターハイ、全中といった大会の中止も発表されました。選手や関係者の皆様にとって、非常に残念なことでありますが、健康・安全あつてのサッカーであることをあらためて感じさせられています。

JFAでは、この状況により経済的に苦しいクラブ、選手、スタッフの皆さんを支援する策を策定し、開始しています。ぜひご確認の上、有効にご活用いただければと思います。

サッカーファミリーの皆さんに、ぜひ、生涯にわたり、長くサッカーを楽しみ続けていただきたいと思っています。この危機を乗り切り、心置きなくまたサッカー、スポーツができる時がきた際に、サッカーファミリーの皆さんと共に、また楽しむことができるようでありたいと思います。

そして、再開した際には、急激に動き出して怪我やコンディションの不良を起こすことのないよう、十分に留意して段階的に動き始めるようにしていただければと思います。

今のこの時を大切に、今できること、今こそできること、考えられることにしっかりと向き合い、今後に向けて、柔軟な発想をもって準備をしていければと思います。

このお便りでも、様々な事例や情報を共有し、それぞれの場に合う形で、できうることを考えていただく材料としていただければと思っています。

中学校の取り組み事例紹介①

神奈川県

事例報告『神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部横須賀ブロックの中学女子の活動』

神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部

横須賀ブロック部長 熊谷 健太郎（横須賀市立神明中学校）

【横須賀ブロックについて】

神奈川県の中サッカーは、県内8ブロックに分かれて活動しており、各地域での現状や特色を共有・共鳴しながら各学校や地域で切磋琢磨してきました。その中でも私が所属している横須賀ブロックは、三浦半島全域（横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町）をエリアとして、海と丘陵に囲まれた小さな地域です。長年にわたり、横須賀ブロック33校のサッカー部とすべての顧問の先生方が学校間を越えて「ONE TEAM」となって、この地域の中学サッカーを盛り上げようと体制を築き、サッカー部の選手を育ててきました。

強豪ひしめく神奈川県を勝ち抜き全国を目指すチームを育て、部活動出身から高校サッカーにつながる選手やプロ選手を輩出しようと、すべての先生方が他校の選手でも「我が地域の選手・子ども」のようにと指導にあたってきた核となる場が、選抜強化講習会です。私は、ブロック長としてその活動のコーディネートをする責任や指導に携わってくださる先生方の補償を工面すると同時に、各学年の監督としても直接ピッチに立ち指導させていただいています。

【選抜強化講習会】

それまで選抜強化講習会は、1年生～3年生まで各学年の男子を各校から選出し年間で活動して育成・強化にあたっていました。年間で約18回の活動となります。あらかじめ横須賀ブロック内すべてのサッカー部顧問の先生方を、いずれかの学年に担当を当てさせていただくことで、ブロックの先生方全員でブロック全体の選手を見ることができるようになり、毎回を指導者研修として機能させることでサッカー経験のない先生方もライセンス保持者の先生方も互いに研修の場・時としてきました。その成果もあり、2012年に田浦中学校が県大会優勝を、2013年に浦賀中学校が全国大会出場を果たすことができたことをきっかけに、次へのステップとして2014年に女子のカテゴリーを選抜強化講習会に増設しました。2020年に入団した清水エスパルスの鈴木唯人選手（葉山中）も初の本活動出身プロ選手です。

【女子の活動】

初年度から女子については、育成・強化を目的とした選抜活動ではなく、普及・育成を目的として、サッカー部に所属している女子選手のうち希望するすべての選手に集まっていただき活動をしています。1・2年目は、全学年合わせて25名前後の選手が集まりました。トレーニングも1～3年生が混合で行うことで、後輩は先輩に追いつこうと一生懸命に取り組み、先輩は後輩に指導を施しながらプレーすることで判断力を養う機会となっています。環境面にも力を入れ、趣旨に賛同いただいた三浦学苑高等学校様のご厚意で人工芝のグラウンドを提供いただいています。また、選抜活動の後は各チームや学校での成長に還元できるようにとオフ・ザ・ピッチの指導にも力を入れてきましたが、女子についても同様に特に初年度は「『なでしこ』らしさ」を身だしなみや立ち振る舞いに求めながらの活動となりました。現在は、人数も20人弱と減少傾向で活動日によっては10名弱での活動もあり、スタッフとなる先生方が積極的に一緒にプレーして下さることでトレーニングやゲームが成り立っています。県内で同様に活動している他地区の女子チームを招いてゲームを定期的に行ったり、中学県大会準決勝・決勝の試合間や裏で女子フェスティバルを行うことで、県内の多くの顧問の先生方や指導者、選手、保護者に認知してもらえよう努めてきました。

【課題】

- ①女性顧問（指導者）の不足
- ②部活動全体の選手数の減少（休部・廃部・合同チームの増加）
- ③自由参加ゆえの育成・強化へのステップアップに苦慮
- ④神奈川県全体としての根付いていない（組織化・リーグ化など）
- ⑤活動の先にあるもの（大会・高校サッカーなど目標や夢）が見えにくい。
- ⑥選抜活動を行う先生方の負担の大きさと補償の心細さ（校務・自チーム・トレセン活動等と並行して）

【成果と学び】

- ①基本的な技術の習得や個人戦術の理解が少しずつ身につき、自チームに戻ってからも自信を持ってプレーする姿が見られている。部活動全体の部員数減少の妙もあるが、チームの戦力として試合や大会でプレーする女子選手も多く見られている。
- ②初年度から多くの女子選手が、各チームでより活発に練習に取り組むようになったことや、学校生活でもリーダーやフォロアーとして活躍するようになったと報告が多い。練習試合や大会会場でもスタッフの先生方に積極的に挨拶をする女子選手も多く、オフ・ザ・ピッチでの成果も大きい。
- ③神奈川県内各地区からも良い反応をいただき、神奈川県中学校サッカー専門部や神奈川県サッカー協会3種委員会としての事業になりつつある。また、組織としてまだ発足していない地域の少数の女子選手も顧問の先生から申し出があり、横須賀地区と合同でプレーするなどの柔軟性や広がりを見せている。2020年1月にはJFA大野真コーチのご支援もあり、東京都杉並区的女子選抜チームと交流することも実現しました。
- ④顧問の先生方の指導力が向上している。活動へのマネジメントや配慮、指導への準備など女子選手だからこそより丁寧に、より細かに取り組むことができている。毎回の活動が指導者研修の場となり、指導者交流の場としても機能している。

【思いと今後に向けて】

私事ではありますが、近年の部活動に吹いている逆風や部員数の減少など大きな不安を抱えながらも、本活動を継続している動機の背景となっているものが2つあります。一つは、前任校で全国中学校サッカー大会に出場させていただいたこと。もう一つは、東日本大震災です。

2013年に前任校の浦賀中学校で全国中学校サッカー大会に出場させていただきました。その大きな土台となっていたのは、選抜強化講習会です。私だけの指導では覚醒できなかったはずの選手やチームが、学校・チームを越えて本気で指導して下さった他校の先生方に出会う中で成長していく過程や瞬間を実感しました。私自身も選抜活動で先輩や同僚の先生方に指導について助言をいただいたり、指導を見せていただく中で成長できたと思っています。2014年に自ら女子のカテゴリーを増設したのは、その延長で自然なことでもあり、選抜活動や横須賀ブロックが次のステップへ進んでいくために必要なことと思いました。地域の指導者が一体となって、地域の子どもたちにも一生懸命向き合うことが大切でした。私も他校の選手を指導させていただくにあたって、自らナショナルトレセンや研修会等にも積極的に参加しましたが、特に女子を指導する指導者の方々の細かな配慮や言葉かけは、男女関わらず部活動の選手たちへの指導にとっても参考となるものが多かったです。

また、2011年3月11日、東日本大震災では、私の実家・宮城県南三陸町も被災しました。直後の女子日本代表のW杯優勝の際には、それまでサッカーを知らなかった故郷の子どもから高齢者までが歓喜に沸いたことを父から教えてもらい、サッカーの底力を感じました。自チームの遠征で故郷へ赴き、被災地の学校と交流を行わせていただきましたが、そこでも少ない人数のサッカー部の中でたった一人でもひたむきにプレーをする女子選手に出会いました。彼女を見てみると、私もサッカーに対してさらに真摯に向き合おうと身が引き締まり、横須賀に戻ってさらに選手の環境づくりに努め続けようと思えることができました。震災で教わった、サッカーの力は、偉大でした。

これからも、男子だから女子だからではなく、部活動を選んでくれた選手たちのために、必要な区別と配慮をしつつ、より多くの選手がサッカーを心から楽しみ、サッカーに心から一生懸命に打ち込み、サッカーを心から愛していけるような環境や指導を提供できるよう、我々教師・指導者がもう一度サッカーに夢中になっていきたいと思っています。

「今から・ここから・私から」、選手たちのためにできることを横須賀から約束します。



中学校の取り組み事例紹介②

大阪府

大阪市女子サッカーアカデミー概要
大阪市中学校体育連盟サッカー部技術指導部
女子アカデミー担当 松田 尚之

1. 大阪市女子アカデミー とは

大阪市中学校体育連盟サッカー部技術指導部の取り組みの一環です。

【経緯】 大阪市中学校体育連盟サッカー部（以下：中体連）内に「大阪市中体連技術指導部」という組織があり、その活動の一環として、大阪市内の各中学校サッカー部から2名ずつ（男子生徒）集め、月に1回程度技術講習会（男子アカデミー）を開催していました。残念ながらその講習会には、女子選手は技術・体力的な問題で参加できていませんでした。

当時の大阪市内の中体連サッカー部（約100チーム）には、一部の学校で男子選手の中で女子選手が1,2名で活動していることが多く、その女子選手に女子だけでプレーする経験をさせるために、男子選手と同様の環境を整えるために女子選手対象の技術講習会（女子アカデミー）を立ち上げるに至りました。参加人数も増え、2019年は女子アカデミー約40人が活動しました。

なお、女子アカデミーの活動は合同練習・トレーニングマッチが中心で、選手は各所属チーム（中学校の部活動）があり、大会には参加することができません。

- ・2014年 技術講習会（女子アカデミー）発足。2名在籍。
- ・2015年 JFA（日本サッカー協会主催）女子サッカーフェスティバルに参加。13人参加。
- ・2016年～ 20人に増え、その後年々増加。

【主な活動内容】

- ・女子のみのトレーニング
- ・女子のみのトレーニングマッチ
- ・高校、大学との交流
- ・セレッソ大阪レディースの協力で女子サッカークリニック開催（中体連のみで80名参加。サッカー未経験者含む）

2. FC Fairies（フェアリーズ）について

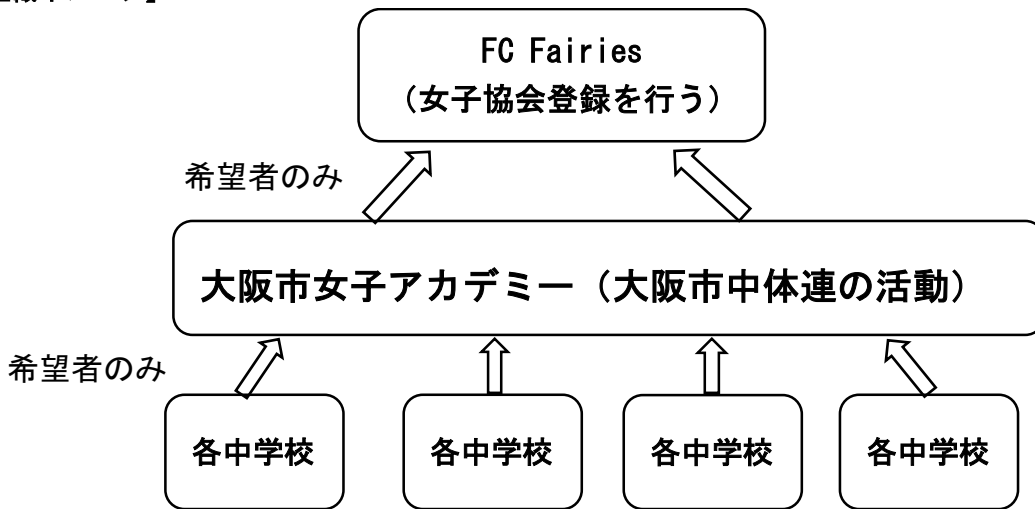
大阪市女子アカデミー生徒の中から要望もあり、さらに公式戦や中体連では活動できないリーグ戦・遠征に参加を希望する女子選手を対象として 中体連登録とは別に日本サッカー協会に登録し、『FC Fairies』として活動しています。

（女子はプレーの機会確保のため中体連とクラブチームの2重活動が認められている）

スタッフは現在中体連の3名の教員がボランティアで行っております。選手は3学年で女子選手約40人が所属しています。

普段は男子とトレーニングしている子たちですが、週末は女の子だけの試合、高校・大学体験、遠征など様々な活動を意欲的に行っています。

【組織イメージ】



【FC Fairies過去の主な活動】

- ・ 2015年 JFA (日本サッカー協会) 女子サッカーフェスティバル (栃木県那須塩原) 参加
- ・ 2017年 OFA (大阪府サッカー協会) 「女子U15ドリームリーグ」参加
- ・ 2018年 カリフォルニア San ramonFC と交流試合、文化交流
ベトナム ホーチミン代表 と交流試合 大阪体育大学、流通経済大学と交流
関西女子サッカー大会出場 等
- ・ 2019年「大阪市女子サッカー大会」開催 (大阪市中体連所属の女子70人で大会を開催)
OFA (大阪府サッカー協会) 「女子U15ドリームリーグα」参加
関東遠征、杉並区的女子中体連チームと交流
「大阪府中体連女子U15地区交流大会」開催 (大阪市、堺市、北河内、吹田市との交流試合) 等

3. 活動の課題

- ・ 中体連とサッカー協会と連携し、女子の活動スケジュールを年間を通して計画することが必要となる。
- ・ 中体連、教育委員会からのグラウンド確保や予算面でのサポートがない。現在は、教員のマンパワーで成り立っている。
- ・ 中体連では女子選手が増えているとはいえ、ジュニア年代から継続する環境が整っていると言えない。(女子サッカー部がない、男子の中でプレーすることになる、など)
- ・ サッカー部顧問を含め、大人的女子サッカーへの理解が必要だと感じる人が多い。
- ・ 指導者 (有資格者) が圧倒的に不足している。

4. 今後に向けて

- ・ 大阪市内に女子サッカーを根付かせる。
- ・ 中体連に「女子サッカー部」を創設する。
- ・ 大阪市内と離島とのサッカー交流を行う。[Fairiesとしての活動]

(大阪市の女の子は、男子の中で少数ではあるがプレーできる環境にある。離島に住む子たちは、大会に参加するのも交通費、滞在費がかかり、楽にサッカーができていて都会の子とは異なる。そのような選手たちとも交流し、様々な体験をさせてあげることが、Fairiesのモットーともマッチすると考える。)



一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟の女子サッカーへの取り組み

一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟は、1978年に「全国サッカークラブユース連合」として発足以来、1985年には「日本クラブジュニアユースサッカー連盟」が発足し、1997年にはユース、ジュニアユースの各連盟が6年間の一貫指導体制を確立することを目的に統合し「日本クラブユースサッカー連盟」となり、さらに2011年4月1日には「一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟」（以下、JCY）として、新たなスタートを切ることとなりました。

誰もが平等に参加できるクラブチームでは、選手一人ひとりのレベル、志向に合ったプレー環境を提供することによって、個性を伸ばし、地域のサッカーやコミュニティの発展に貢献するとともに、躍進を続ける日本サッカーの一つの柱となっています。

JFAが掲げるなでしこvisionの理念実現に向け、JCYが女子活性化に取り組む意義と目的について考えて参りました。

JCY加盟チームが女子サッカーに関心を持ち、さらにチーム設立・運営も行うようになれば、チーム数の増加にもつながる。JCY加盟の各クラブにとっては、地域密着、地域に愛されるクラブ作りにもつながり、相互で発展・活性化が期待できる。そのため、女子U-15・18年代の活性化を図っていくべきと結論に至り、2015年より「JCYレディースサッカーフェスティバル」を開催して参りました。

さらなる女子サッカー活性化を目指し、2018年からJFAと連携協力し、JCYに「女子委員会」を立ち上げ、大会開催や加盟登録制度など、国内の女子サッカー育成環境の改善について検討して参りました。2019年には、「XF CUP 2019 第1回日本クラブユース女子サッカー（U-18）大会」を開催し、全国のみならず、海外からもチームを招待して交流の場を広げました。2020年度からは女子U-18の加盟登録制度を開始し、今後、女子U-15年代の加盟登録制度、全国大会開催を整備していく所存です。

JCYは、U-18・U-15、女子U-18・U-15年代のサッカーの一層の普及・発展を促していくものです。広く地域社会に根差し、加盟クラブのレベルアップを図りながら、新しいスポーツ文化の確立に向けて着実に歩みを進めています。

新型コロナウイルス感染症対策 JFAサッカーファミリー支援事業

新型コロナウイルス対策 JFAサッカーファミリー支援事業について GOALS beyond COVID-19 ～この危機を、ともに乗り越える～

公益財団法人日本サッカー協会は5月14日（木）、2020年度第6回理事会の承認を経て、「新型コロナウイルス対策 JFAサッカーファミリー支援事業」を正式に立ち上げました。新型コロナウイルスの影響が広範囲に及ぶなか、サッカーを楽しみ、その活動を支える環境は存続の危機にあります。一度手放せば復旧に多くの時間を要するこの環境は日本サッカー界の重要な財産のひとつであり、普及・育成・強化の観点からも重要であると考えています。

支援内容は、JFAによる直接的な財政支援のほか、経済的に困窮する選手を対象とした登録料の免除、サッカーファミリー間の相互支援のための支援金口座開設、相談窓口（電話・ウェブ）の設置など多岐にわたります。

なお新型コロナウイルスの影響はJリーグやなでしこリーグ、Fリーグなどのリーグ、連盟、クラブ、さらには地域・都道府県サッカー協会にも及んでおり、これらに対する支援策は6月以降の理事会で協議する予定です。

記

【支援内容概要】

①第1次サッカーファミリー財政支援事業（融資型）

今回はクラブチームならびにスクール事業者を対象とした融資事業で申請は6月末まで。今後、数か月単位でフェーズを分けて実施予定。

融資金額： 30万円～500万円 ※条件により異なります

②登録料免除

新型コロナウイルスの影響で経済的に困窮している選手を対象とし、2020年度のJFA選手登録料を免除します。

③相談窓口の設置（5月7日に開設済）

JFA公式Webサイト内専用フォームあるいは電話窓口（050-2018-1999）を通じてサッカーファミリーが抱える課題を正確に把握し、今後の施策につなげていきます。

④新型コロナウイルス対策JFAサッカーファミリー支援金口座

用途： 新型コロナウイルスに関連したJFAサッカーファミリー支援事業やリーグ、連盟、地域・都道府県サッカー協会への支援などに活用される予定で、配分方法はJFA理事会にて決定します。

支援金口座： みずほ銀行(0001) 渋谷支店(210) 普通預金 口座番号3079244

公益財団法人日本サッカー協会 新型コロナウイルス感染症対策支援金口

※このほか、協会納付金の免除や医療機関の支援等を実施してまいります。

※詳細はJFA公式Webサイト内特設ページ（<https://www.jfa.jp/ffsupport/>）をご参照ください。

登録指導者リフレッシュポイント獲得期間の延長について

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からリフレッシュ研修会の開催を見送らざるを得ない状況であり、今後も十分な研修機会を創出することが難しい状況が一定期間続くと予想されることから、特別措置として登録指導者のリフレッシュポイント獲得期間を1年間延長します。

なお、JFA及び都道府県サッカー協会主催による代替研修会は引き続き実施しておりますので、受講可能です。

【登録指導者リフレッシュポイント獲得期間の延長】

1. 対象ライセンス

S級、A級ジェネラル、A級U-15、A級U-12、B級、C級、フットサルA級・B級・C級ライセンス

2. 対象者

a) 2020年4月30日時点で資格が有効、または未納失効、未納未達失効状態の指導者
（4月30日で期間満了退会となる方は除きます）

b) 2020年5月1日から対象ライセンスが有効開始となる指導者
（新規登録及び昇級者）

c) 2020年7月1日～2021年3月1日の間に対象ライセンスが有効開始となる指導者
（新規登録及び昇級者）

※ライセンス未達失効中・未納未達失効中（猶予期間中）の指導者について

2020年4月30日時点で未達失効状態（失効日から6か月間以内）の方については、不足ポイント数に応じたレポート課題の提出を条件に資格復活措置を行います。レポート課題提出については、5月を目途にKICKOFFご登録のメールアドレス宛にご案内予定です。

3. リフレッシュポイント獲得期間延長後の期限

（現）獲得期限	⇒	（新）獲得期限
～2020年04月30日まで	⇒	～2021年04月30日まで
～2020年06月30日まで	⇒	～2021年06月30日まで
～2020年08月31日まで	⇒	～2021年08月31日まで
～2020年10月31日まで	⇒	～2021年10月31日まで
～2020年12月31日まで	⇒	～2021年12月31日まで
～2021年02月28日まで	⇒	～2022年02月28日まで
～2021年04月30日まで	⇒	～2022年04月30日まで

（以降同様）

※2020年4月1日～2021年3月31日の期間がリフレッシュポイント獲得期間に含まれる指導者は全員延長の対象となります。

前述の期間がリフレッシュポイント獲得期間に含まれない指導者は延長の対象とはなりません。

4. その他

KICKOFFマイページ、及びテクニカルニュースサイトに表示されるリフレッシュ有効期限は、2020年4月30日（対象者の[a]と[b]向け）と2021年3～4月（対象者の[c]向け）の2回に分けて、延長後の期限に変更いたします。

【本件に関するお問い合わせ先】

（公財）日本サッカー協会指導普及部指導者養成グループ

e-mail : jfa_coach@jfa.or.jp

「#私がサッカー少女だったころ」

女子サッカー選手からサッカー少女へのメッセージ

（一社）日本女子サッカーリーグと（公財）日本サッカー協会では、大好きなサッカーができずに我慢の状況が続いている全国のサッカー少女に向けて、女子サッカー選手が動画でメッセージを送る企画「#私がサッカー少女だったころ」を展開します。

日本女子サッカーリーグ所属クラブ各1名の選手が「#私がサッカー少女だったころ」というテーマについて語り、その様子を動画で配信します。配信は、なでしこリーグ公式Twitterアカウント及びJFAなでしこサッカー公式Twitterアカウントなどで、5月1日より開始しております。

全国のサッカー少女たちがボールを蹴る喜びを忘れず、夢を諦めてしまわないように、女子サッカー選手からの言葉を全国のサッカー少女たちに届けたいと考えています。情報拡散にぜひご協力ください。

なでしこリーグ公式Twitterアカウント : https://twitter.com/Nadeshiko_L

JFAなでしこサッカー公式Twitterアカウント : https://twitter.com/jfa_nadeshiko





なでしこひろば

なでしこひろばデータをまとめてみました

全国都道府県別認定団体数及び2020年4月開催申請数

都道府県	団体数	開催申請数	都道府県	団体数	開催申請数
1 北海道	12		25 滋賀県	5	
2 青森県	5		26 京都府	7	
3 岩手県	5		27 大阪府	16	2
4 宮城県	9		28 兵庫県	10	
5 秋田県	3		29 奈良県	3	
6 山形県	2		30 和歌山県	3	2
7 福島県	2		31 鳥取県	1	
8 茨城県	8		32 島根県	1	
9 栃木県	11	2	33 岡山県	6	
10 群馬県	4		34 広島県	8	
11 埼玉県	28		35 山口県	2	
12 千葉県	10	1	36 香川県	6	
13 東京都	50	2	37 徳島県	3	
14 神奈川県	21		38 愛媛県	3	
15 山梨県	5		39 高知県	2	
16 長野県	7		40 福岡県	12	
17 新潟県	5		41 佐賀県	4	
18 富山県	3	4	42 長崎県	6	
19 石川県	4		43 熊本県	3	
20 福井県	5		44 大分県	5	
21 静岡県	11	2	45 宮崎県	2	
22 愛知県	17	1	46 鹿児島県	2	
23 三重県	9		47 沖縄県	6	
24 岐阜県	4		合計	356	16

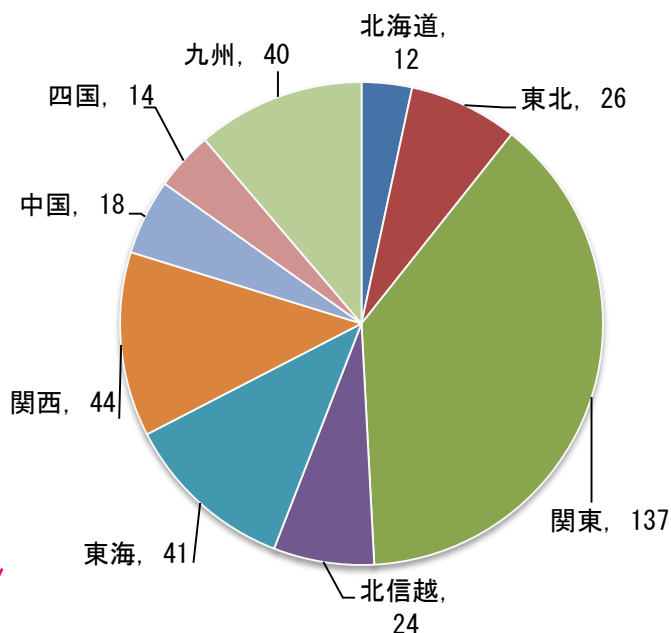
【2020年4月データ】

- ・全国登録団体数 : 356団体
- ・新規登録団体数 : 0団体
- ・認定団体数の全国トップ3
 - 1) 東京都 (50団体)
 - 2) 埼玉県 (28団体)
 - 3) 神奈川県 (21団体)
- ・全国開催申請数 : 16開催
(3月開催申請数は62開催、46開催減)

※4月も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、開催申請数自体非常に少なかったのですが、しばらく活動のなかった団体様から、活動再開予定の嬉しいご連絡も頂戴しました。1日も早く、安全にサッカーを楽しめる日が来ますように！

地域別認定団体数

北海道	12カ所
東北	26カ所
関東	137カ所
北信越	24カ所
東海	41カ所
関西	44カ所
中国	18カ所
四国	14カ所
九州	40カ所
【合計】	356カ所



<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

※次回は2020年6月8日(月)配信予定です